

補修法へ理解深める

林道橋メンテ研修 初開催

県コンクリート診断士会

自治体職員ら積極参加

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）が主催する林道橋メンテ研修が20日、大野市で開催され、同士会メンバーや自治体職員が参

加し、林道荒島線・荒島橋の補修工事現場を訪れ、非破壊検査試験の実習や橋梁の補修工法などを熱心に学んだ。

現場実習に先立ち、参加者らは、大野市役所で同士会が講師役を担ってコンクリート林道橋の維

持補修事業の現状やコンクリートの基礎知識に関する講習を受けた。

研修冒頭、県森づくり課の坂川清参事が挨拶し「高度成長期に集中整備されたインフラの老朽化が今後見込まれる中、12年度の中央自動車道笹子トンネルの崩落事故を受け、全国的にメンテナンス



非破壊検査実習に取り組む参加者＝大野市荒島橋

スの気運が高まっている」と述べた。続いて同課の朝井範仁主事が林道長寿命化計画について説明し、その後、石川会長がコンクリート構造物の維持管理の基礎知識に

ついて3大損傷のASR（アルカリ骨材反応）、塩害および凍害の具体的な事例を挙げながら分かりやすく紹介した。ASRは九頭竜川水系で安山岩が広く分布し特にその上流部で発生。塩害は日本海からの季節風の影響で海岸沿いで多く発生。また凍害は冬の最低気温がマイナス2度を下回る奥越地区の山間部で発生するとそれぞれの分布図を示し、特に奥越はASRと凍害の被害を受けやすい地域であると話し参加した自治体職員らに理解を促した。

続いて同士会の原幹夫副会長はコンクリート橋の劣化原因について解説し、同橋の変状と調査方法、林道施設長寿命化対策マニュアルに基づく劣化評価なども紹介した。その後の現地実習では荒島橋を教材として、コンクリート構造物内の鉄筋や埋設物などを調査する方法の一つ、電磁波レダ法を実際の機器を用いて学ぶなど参加者らは補修工法の知識を深めた。